

新年のごあいさつ

明けましておめでとうございます。

皆様には、健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

『一年の計は元旦にあり』—電子カルテがスタートしました。

本院では1月1日元日をもって、電子カルテを含めた新たな総合医療情報システムがスタートしました。院内プロジェクトチームと職員すべての英知の結集がついに稼働しました。本院が一丸となり、明るい未来に向けてまた新たな一歩を進めたことを宣言いたします。新システムでは、医療ITの最たる電子カルテにより、診療情報の共有化や効率化などから、患者の皆様へ質の高い最善の医療を提供できる環境づくりをさらに推進します。電子カルテへの移行後、システムが安定するまでの間、患者の皆様には何かとご迷惑をおかけしますが、なにとぞ、ご理解とご協力をお願いいたします。

『利他の心』を念う（おもう）

昨年はオリンピック開催地選考プレゼンテーションでの「お・も・て・な・し」が世界に感動を与えた。おもてなしの心はホスピタリティ（hospitality）」の語源からして、病院（hospital）のあるべき姿そのものである。一般的には、医療者には“相手を思いやる”サービスの精神が望まれています。しかし、よくよく医療というものを思いめぐらせば、“相手を思いやる”という表現こそが思い上がりの的で、一方的な態度であることへの気づきが大切です。“おもう”の漢字表現には「思う・想う・念う・憶う・懐う」があり、それぞれ奥深い意味が込められている。不透明で不安定な世情にあって、医療者が達成感に満ちて涵養の道を歩むには、発想の転換から自己変容が必要です。

今こそ、日本人が古来生きる知恵として大切にしてきた「利他の心」が求められている。ヒトをおもう「利他心」は寄り添いと思いやり、それを形にしたものがヒトとしての“マナー”、他者を思う心は“おもてなしの礎”といわれている。利他の心の表現型としての医療の実践、これこそが不確実な医療を確実なアートに昇華する道であり、病めるヒトが喜びと感謝で満足しうる医療の究極であると“想い”たい。心に刻む強い思いを“念う”という。もう一度、地に足をつけて、利他の心を“念う”医療を目指したい。双方向的な心の寄り添いが医療者の原点である—このことは、ずっと職員の皆さんにお願いしてきた。お願いするだけではなく、今年こそ、自ら“智慧の扉”を開けたい。

午年にこそ“駿馬”

「大津市民病院経営計画（平成24～30年度）」は次世代に引き継ぐ持続可能な、強い病院創りを目指しています。はや、2年が経過しようとしています。すべては、『市民とともにある健康・医療拠点』としての使命を力強く実行しようとする決意の計画です。しか

しながら、昨今不安定な外部要因の障壁も大きく、計画の進捗は決して安寧ではなく、今後も紆余曲折が予想されます。グローバルな先行き不透明感、地球規模での未曾有な自然災害、エネルギー料金の高騰、消費税引き上げ、ラットレースのような診療報酬改定など、医療や病院を取り巻く環境はますます厳しさを増しています。新年早々、“思う”題材は決して明るくありません。

本院が伝統的に大切にしてきた“医療の質”向上に向けた取り組みの中で、昨年12月にはISO9001（国際標準化機構）品質マネジメントの継続認証をクリアし、昨年度から新たなQI（クオリティ・インディケーター）プロジェクト参画による医療の質の評価・測定事業も推進しています。臨床研修センターや患者総合支援センターが徐々に成長してきたことは、頼もしい限りです。

この1月中旬には、高度血管内治療が可能な血管造影装置（3D-Biplane Flatpanel DSA）が稼働します。脳神経および腹部領域で大きな威力を発揮する最新鋭機器を導入しました。また、一月末には、待望のリニアック導入に向けた放射線治療室工事の槌音が始まります。周辺の皆様には、長期間工事でご迷惑をおかけしますが、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

午年にちなんで、“駿馬”のイメージで、本年が生き活きとした明るい未来に向けた一年であるように、真摯に前向きに歩んでいきたく存じます。再度、地に足をつけて駿馬のスピード感で邁進いたします。皆様方のご支援をいただきながら、大津市民病院ブランドの夢を次世代に繋いでいきたいものです。

新しい年が皆様にとって、輝かしい幸多い年でありますように祈念いたします。

大津市民病院経営計画（平成24～30年度）-Next stage

【目指す方向性とあるべき病院の姿】

市民とともにある健康・医療拠点

【7つの基本方針】

- ① 質の高い医療を効率的・安定的に24時間365日提供する病院
- ② 幅広く市民の健康をサポートする病院
- ③ 患者やその家族の気持ちを感じ取り行動していく病院
- ④ 地域の医療機関が患者のために協働したくなる病院
- ⑤ がんばりたい医療スタッフをひきつける病院
- ⑥ しっかりとした経営感覚を持った病院
- ⑦ 目標を設定し、持続的に進化する病院

本年度のキーワードは“連携と信頼です”。

合い言葉：

“必” ころのくさび

コロコロよく変わるココロ。漢字の「心」も安定感がない。それでは困るので一本のくさびを打ち込んで「必」として「必ず」にする。これで安定する。次期病院経営計画は大津市民病院の“心のくさび”です。